

## 令和5年度 確かな学力向上推進プラン

江戸川区立西一之江小学校

6年生 全国学力調査における平均正答数及び平均正答率								令和5年4月18日実施								
教科	令和2年度 結果		令和2年度 全国平均		令和3年度 結果		令和3年度 全国平均		令和4年度 結果		令和4年度 全国平均		令和5年度 結果		令和5年度 全国平均	
国語					9.0/14	64%	9.1/14	64.7%	8.1/14	58%	9.2/14	65.6%	8.8/14	63%	9.4/14	67.2%
算数	新型コロナウイルスの影響 により実施せず				10.9/16	68%	11.2/16	70.2%	9.5/16	60%	10.1/16	63.2%	9.4/16	59%	10.0/16	62.5%
理科									10.3/17	61%	10.8/17	63.3%				

学力向上に向けた取組						
論点	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
論点1 基礎的・基本的事項の定着	・補充学習的にドリルを活用した宿題	・放課後補習教室	・放課後補習教室	・放課後補習教室	・放課後補習教室	・放課後補習教室
論点2 学習規律の徹底	・机に出す物、板書やノート記述のルール ・「話し合い」「発表のきまり」「話し方」「聞き方」といったルールの明確化	・机に出す物、板書やノート記述のルールの確認 ・「話し合い」「発表のきまり」「話し方」「聞き方」といったルールの明確化	・発表の際の約束を決める ・ノートの書き方のきまり等の徹底	・発表の際の約束を決める ・ノートの書き方のきまり等の徹底	・発表の際の約束事の確認 ・持ち物のきまりの確認	・発表の際の約束事の確認 ・持ち物のきまりの確認
論点3 生活習慣の確立	・子どもに本や読むようにすすめる ・保護者に「朝食を毎日とる」「毎日同じ時刻に寝る、起きる」等の働きかけ	・子どもに本を読むようにすすめる ・保護者に「朝食を毎日とる」「毎日同じ時刻に寝る、起きる」等の働きかけ	・保護者にテレビゲームをやり過ぎる害や、「子どもと一緒に図書館へ行く」等の読書に関する働きかけ	・保護者にテレビゲームをやり過ぎる害や、「子どもと一緒に図書館へ行く」等の読書に関する働きかけ	・家庭での学習習慣と学校の規則を守る態度が身に付くような働きかけ	・家庭での学習習慣と学校の規則を守る態度が身に付くような働きかけ
論点4 家庭学習の指導の充実	・入学時の保護者会で、家庭学習の意義等について説明	・宿題に加え、自主学習、日記等を課し、丁寧なコメントの記入やシール等を活用	・児童の学年や実態に応じた内容と量を家庭学習として出す	・児童の学年や実態に応じた内容と量を家庭学習として出す	・児童の学年や実態に応じた内容と量を家庭学習として出す	・家庭学習を終えられない場合に昼休みや放課後を活用
論点5 言語に関する指導の充実	・教科を問わず意図的に書かせる活動の徹底	・行事の作文指導	・書かせることで、書く習慣を身に付けさせる	・書かせることで、書く習慣を身に付けさせる	・子どもに自分の考えを話す機会を意識的に設定 ・教科を問わず意図的に書かせる活動の徹底	・子どもに自分の考えを話す機会を意識的に設定 ・教科を問わず意図的に書かせる活動の徹底
論点6 教員の学習指導力向上	・教員自作による学習プリントの共有 ・OJTの実施	・日常的な教員同士の授業参観や意見交換の実施 ・OJTの実施	・日常的な教員同士の授業参観や意見交換の実施 ・OJTの実施	・日常的な教員同士の授業参観や意見交換の実施 ・OJTの実施	・日常的な教員同士の授業参観や意見交換の実施 ・OJTの実施 ・教科担任制の実施	・日常的な教員同士の授業参観や意見交換の実施 ・OJTの実施 ・教科担任制の実施

教科	各教科の授業改善に向けた指導の重点					
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	・日常的に書く活動を意識的に 入れ、ひらがなを文として正しく 書けるようにする。音読を多く 取り入れ、教科書の文はすらすら と読めるようにする。	・日常的に書く活動を入れ、既 習の漢字を文章中で正しく使い 文章を書けるようにする。音読 を多く取り入れ、教科書の文を すらすらと読めるようにする。	・文法の基本（主語、述語、修 飾語）の指導を徹底する。作文 指導でも文法を意識して、相手 に伝わる文章を書けるようにす る。	・中心となる語や文をとらえて 段落相互の関係を考え文章を 正しく読む。そのために、様々 な読み物に触れ、興味をもてる ようにする。	・説明的文章の要旨を捉える力 を養えるような指導をするとと もに、言語についての知識が定 着できるように、復習する機会 も意図的に設けていく。	・「書く力」をつけるため目的 に応じて書いたり、要旨を捉え たりする力を伸ばす授業を行 う。
社会			・表題の読み取りなど資料の読 み取りの基礎を身に付ける。	・自分の力で資料を読み取り、 自分の考えをもてるようにす る。	・児童の苦手な2種類以上の資 料を比較・関連付けて考えさせ る時間をとる。	・物事を多面的に考えさせるよ うな指導や発問を意識して行っ ていく。
算数	・具体物を使った活動を取り入 れ、数量を実感できるようにす る。足し算、引き算は、繰り返し 練習をし、正しく早くけいさん できるようにする。	・足し算や引き算の繰り上がり 繰り下がりと筆算、掛け算九九 は、繰り返し練習をし、素早く 正確に計算できるようにする。	・四則演算が素早く正確に出来 るように技能の定着を図る。	・考えさせる場面、身に付けさ せる場面を授業の中で取り入 れ、基礎基本の定着を図る。	・応用の問題などの経験が少な いので、適用問題を取り入れた り、文章問題に取り組んだりす る時間を増やしていく。	・題意をきちんととらえさせる 指導をする。また、自分の導い た回答が、問われていることに 沿っているかどうかを確認する ことも習慣づけていく。
理科			・問題解決的学習の基本的な型 を知り、児童が問題を作れるよ うに事象の提示を工夫する。	・既習事項やこれまでの経験か ら考えさせる発問の工夫をす る。「見通し」をもった実験が できるよう支援する。	・技能と知識・理解を問う問題 が苦手なので、授業で積極的に 実験を行い器具の名前、使い方 の指導をする。	・観察・実験を計画させ、技能 や知識の必要性をもたせる授業 展開をする。
生活	・植物や生き物に触れ、多様な 気づきができるようにしたり友 達との交流を取り入れたりする ことで気づきを深められるよ うにする。	・学校や町を探検したり、もの づくりをしたりし、多様な気づ きができるよう、友達との交流 を取り入れ、気づきを深められ るようにする。				
音楽	・交互唱や打楽器を使った表現 に興味・関心をもち、拍の流れ にのって音楽を表現できるよう にする。	・友達と声や音を合わせ、リズム にのって表現することに興 味・関心をもち、すすんで学習 に取り組めるようにする。	・リコーダーの基礎的な奏法を 身に付け、音色に気を付けて演 奏したり、友達と音を合わせた りできるようにする。	・曲の特徴に関心をもち、リズム や音程、強弱に気を付けて、 曲にあった演奏や意図をもって 表現できるようにする。	・曲想を生かした表現を工夫す るために音楽の形づくっている 要素に着目し、友達と協力しな がら取り組めるようにする。	・歌詞の内容や曲の構成を理解 し、思いや意図をもって表現で きるように発問や展開の工夫を 行う。
図画 工作	・身近で扱いやすい材料や用具 に慣れさせる。手や体全体の感 覚を働かせることができるよ うな教材を工夫する。	・身近で扱いやすい材料や用具 に慣れさせる。手や体全体の感 覚を働かせることができるよ うな教材を工夫する。	・色や形、素材の質感に関心を もたせるため、教材を工夫す る。	・いろいろな道具、材料に触 れ、造形感覚の基礎・基本を身 に付けることができるようにす る。	・これまで学んできた道具や材 料の経験を生かして表現でき るようにする。	・これまで学んできた道具、材 料の経験を生かし、工夫して自 分の造形活動を行えるようにす る。
家庭					・家庭生活をたいせつにする心 情をはぐくみ、日常生活に必要 な基礎的・基本的な知識や技能 の習得を目指す指導をする。	・衣食住に関する智識と技能を 身に付け、家族の一員として生 活をよりよくしていこうとする 実践的な態度が育つ指導をする
体育	・多様な動きを経験したり、運 動量を多くしたりするために、 活動内容や場の設定を工夫す る。	・多様な動きを経験したり、運 動量を多くしたりするために、 活動内容や場の設定を工夫す る。	・児童が進んで取り組めるよ うに場の設定を工夫する。	・基礎的な動きを組み合わせ て発展的な技につながるような 指導の工夫をする。	・自己の能力に適した課題を見 付け、課題を解決できるよ うな場を設定し、指導する。	・自己の能力に適した課題の解 決の仕方を工夫できるような多 様な方法の提示や場を設定した 指導。